



1964(昭和39)年6月16日13時1分  
マグニチュード7.5の地震が発生

1964(昭和39)年6月16日13時1分、マグニチュード7.5の地震が発生し、新潟市、長岡市、相川町(現佐渡市)などでは震度5を観測した。この地震により、新潟県内では死者13名、負傷者315名、住家全壊1,448棟、半壊一部損壊約25,000棟の被害となり、また新潟市沿岸で高さ約2.4mの津波が到来し、浸水被害も広範囲に及んだ。液状化現象によるコンクリート建物の傾斜や転倒、浸水地を漂う原油による石油タンクや周辺建物の炎上、信濃川に架かる昭和大橋の落橋など、新潟市の都市機能が麻痺し甚大な被害をもたらした激震であった。



## 新潟地震の概要と被害

- 発生 / 1964(昭和39)年6月16日13時1分
- 震源地 / 新潟県粟島沖南方十数キロメートル  
(北緯38度21分、東経139度11分)
- 深さ / 40km
- マグニチュード / 7.5
- 震度 / 震度5(新潟市、相川町、長岡市など)
- 死者 / 13人
- 負傷者 / 315人
- 建物全壊 / 1,448棟
- 建物半壊 / 5,376棟
- 建物一部損壊 / 19,472棟
- 床上浸水 / 9,446棟
- 床下浸水 / 5,544棟

参考文献: [内閣総理大臣官房審議室] 新潟地震災害対策記録1964-12  
※市町村名は震災当時

記憶を大切につないでいく。他人ごとから自分ごとへ。

「あの時」を振り返ってみよう

今日は60年前に新潟地震が起った日なんだって。知ってた?

え、そうなの?

それが自然災害

「いつか」ではない。「今夜」起こることもある。

地震をきっかけに、津波や火災、液状化現象まで起って、大きな被害になったんだ

でも、一部の地域に限られていて、長くは続かなかったんじゃないの?

いや、そうでもないんだ。津波の浸水地域は広範囲で、断水も被害の大きかった地区では復旧に1カ月半もかかったとか

とはいえる60年前のことだから。なんか、実感わからないんだよね

確かに、遠くの出来事だったり昔のことだったりすると、実感を持ち続けるのはむずかしい

お正月には能登半島地震も起ったけど……他人ごとなんだよね

薄れてしまう。それは分かるよ。ではちょっと質問。大きな地震って今後、起ると思う?

もちろん、思うよ

今夜起ると思う?

それは、思わないな

新潟地震もそうだったんだ。「この辺は起らないだろう」となぜかほとんどの人がそう思っていた。でも、突然に起った。「千年に一度」と言われる自然災害もそう。「今夜」と思えば、備えに対しても真剣になるんじゃないかな

「その時」の暮らしをイメージしよう

実感がわからない。やっぱ他人ごとだよね。  
「自分ごと」に考え続ける秘訣ってあるの?

大切なのはイメージすること。例えば朝、トイレに行く。ボタンひとつであっという間に水が流れる。でも災害が発生したら、水は流れない。流れない、そう考えてみること

飲む水にも苦労する。お風呂にも入れない。温かいものもなかなか食べられない…

新潟地震の時は「防災」という言葉もポピュラーじゃなかったというから、家庭での備蓄という考え方ほとんどなければ指定避難所の規定もなかったんだ

過去を振り返ることで分かること、そして未来に生かせることがきっとあるんだね



つながる記憶がモシモを救う  
防災・減災  
にいがたプロジェクト  
2024

### 自分ごとに「わが家の防災力を上げよう!

Check!  
その1

#### 「わが家のリスク」を確認し直す

ハザードマップをチェック!

地震によって複合的な災害が起こることを考えると、例えば揺れの強さだけを見ておけばいいわけではありません。液状化の危険度、津波による浸水・洪水被害、さまざまなリスクを総合して確認することが第一段階です。ハザードマップの種類は8つ。このうち地震に関連するものは津波、土砂災害、地震危険度(揺れやすさとそれに付随する液状化)、宅地(造成地の危険度)。住んでいるところはもちろん勤務先なども危険度を調べ、避難場所も確認しておきましょう。自治体によってはハザードマップをまとめた総合版を提供しているほか、国土交通省が運営するポータルサイト

【地震被害のリスク】  
各市町村のハザードマップ  
○○市 ハザードマップ 検索

地震をきっかけに、津波、火災、液状化現象と多様な被害を生んだことから、新潟地震を「近代の複合災害であり防災の原点」と位置付ける山村さん。どうしたら地域の、そしてわが家の「防災力」を上げられるか、具体的な対策を聞きました。



防災システム研究所  
所長 山村 武彦氏

1964年、新潟地震での災害ボランティア活動を契機に「防災システム研究所」が設立。以来50年以上にわたり世界中で発生する災害の現地調査を実施、講演会や報道番組での解説、執筆活動等を通じ、防災意識の啓発に取り組む。また、多くの企業や自治体の社外顧問やアドバイザーを歴任し、BCPや防災マニュアルの監修等、災害に強い企業、社会、街づくりに携わる。現代ビジネスでの連載、「台風防災の新常識」、「互助の力」など著書も多数。

新潟地震をきっかけに生まれたもの、始まったことがあります。地震保険、地震予知研究、建築基準法の改正、「防災の原点」と私が位置付ける根拠もあります。



【液状化被害のリスク】  
北陸地方整備局  
新潟県内の液状化  
しやすさマップ



●私たちは、新潟の未来のためにこのプロジェクトに取り組んで参ります。[県市町村] 新潟県/新潟市/長岡市/三条市/柏崎市/新発田市/小千谷市/加茂市/十日町市  
見附市/村上市/燕市/糸魚川市/妙高市/五泉市/上越市/阿賀野市/佐渡市/魚沼市/南魚沼市/胎内市/聖籠町/弥彦村/田上町/阿賀町/出雲崎町/湯沢町/津南町/刈羽村  
関川村/粟島浦村 [国土交通省] 国土地理院北陸地方測量部/北陸地方整備局/気象庁新潟地方気象台 [報道機関] 新潟日報社

お問い合わせ

防災・減災 新潟プロジェクト2024実行委員会 (事務局) 国土交通省 北陸地方整備局 企画部企画課 tel 025-280-8880

Q 防災・減災 新潟プロジェクト



ホームページ X (旧Twitter)